

昭和五十三年度大会の概況 日本思想史学会の昭和五十三年度大会は、学会創立十年記念大会として、十月二十八日（土）二十九日（日）・三十日（月）の三日間にわたり、東北大学文学部を主会場として開催された。

第一日は、読売仙台ビル読売ホールにおいて、次の三氏による記念講演が行なわれた。

明治末期の若い精神

東京大学名誉教授

古 川 哲 史

神社の思想史

国学院大学教授

西 田 長 男

日本精神史上の平安初頭

東北大学名誉教授

石 田 一 良

右の記念講演終了後、六時より仙台ホテルにおいて懇親会が催された。

大会第二日は研究発表と総会が行なわれた。研究発表は午前と午後、それぞれ二会場に分れて行なわれたが、発表者は次の諸氏である。

- | | | |
|---|------------------|----------|
| 1、古代仏教における鎮魂の論理 | 岡山ノートルダム清心女子大学講師 | 八重樫 直比古 |
| 2、新嘗節会試論 | 東北大学大学院 | 黒 崎 輝 人 |
| 3、源氏物語における過去
——後悔の心理をめぐって—— | 東北大学大学院 | 矢 沢 勢 紀子 |
| 4、道元と出家教団 | 中央大学大学院 | 半 田 栄 一 |
| 5、道元の無常観 | 仙台女子高校教諭 | 加 藤 健 一 |
| 6、初期真宗における戒律観の変容
——『末法燈明記』受容をめぐって—— | 東北大学助手 | 佐 藤 弘 夫 |
| 7、芸能と禅との関係について
——特に世阿弥の晩年の作品を中心として—— | 松ヶ岡文庫研究所研究員 | 新 保 哲 |

8、無常と盈虧

仏教大学助教

池見澄隆

9、キリシタン宗門と吉田神道

——「天道」にあらわされたデウスと国常立尊との接点——

小山恵子

10、羅山学の成立とその性格

——主に理気論・心性論において——

東北大学大学院

栗原克榮

11、太宰春台と黒田直邦

東京農業大学教授
岡山ノートルダム清心女子大学教授

小笠原春夫

12、真淵と秋成の思想的対峙

東北大学大学院

磯原真行

13、天保期の佐久間象山

九州大学教授
淑徳大学教授
青山学院女子短期大学教授

山上宗之

14、井伊大老の天皇・朝廷観

幕末・明治初期の本願寺教団とキリスト教

上原英正

15、幕末・明治初期の本願寺教団とキリスト教

内村鑑三の社会評論

小原信

16、内村鑑三の社会評論

丹沢正作の人と思想

清水威

——地域への奉仕とその実践的思想——

甲府工業高校教諭

清水威

総会は十二時より行なわれ、事務局より五十二年度事業報告および決算報告がなされ、それぞれ承認された。続いて事務局より会費改訂案・五十三年度事業計画および予算案が提出され、審議の結果これらは承認された。大会第三日は、平泉方面への見学旅行が行なわれた。参加者は五十余名であった。